

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-152412

(43)Date of publication of application : 09.06.1998

(51)Int.Cl.

A61K 7/027

(21)Application number : 08-324790

(71)Applicant : SHISEIDO CO LTD

(22)Date of filing : 20.11.1996

(72)Inventor : MINAMI KOJI
YOSHIDA KUNIIKO
SHINOJIMA SATORU
SOYAMA YOSHIKAZU
NASU AKIO

(54) COMPOSITION FOR ROUGE (LIP STICK)

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a rouge composition that shows good spread and excellent moist feeling without reduction in gloss on application by formulating a combination of an ester from a hydroxy acid and an aliphatic alcohol with a lipid in prescribed amounts.

SOLUTION: This composition contains an ester of a hydroxy acid with an aliphatic alcohol in a amount of $\geq 5\text{wt.}\%$, preferably $\geq 10\text{wt.}\%$ and a lipid in a mount of $0.1-3\text{wt.}\%$, preferably $0.1-2\text{wt.}\%$. Said ester is, for example, oleyl hydroxy stearate, isopalmityl recinoleate, oleyl ricinoleate. Soybean phospholipid is preferably as a phospholipid.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

18.02.2002

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-152412

(43) 公開日 平成10年(1998) 6月9日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

A 6 1 K 7/027

A 6 1 K 7/027

審査請求 未請求 請求項の数 4 F D (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平8-324790

(22) 出願日 平成8年(1996)11月20日

(71) 出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72) 発明者 南 孝司

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株

式会社資生堂第一リサーチセンター内

(72) 発明者 吉田 邦彦

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株

式会社資生堂第一リサーチセンター内

(72) 発明者 篠島 哲

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株

式会社資生堂第一リサーチセンター内

(74) 代理人 弁理士 長谷川 洋子

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 口紅用組成物

(57) 【要約】

【課題】 つや、しっとり感に優れるとともに、のびが良好な、使用性に優れた口紅用組成物を提供する。

【解決手段】 オキシ酸と脂肪族アルコールとのエステル化合物を重量%以上と、リン脂質を0.1~3重量%配合してなる、口紅用組成物。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 オキシ酸と脂肪酸アルコールとのエステル化合物を5重量%以上と、リン脂質を0.1～3重量%配合してなる、口紅用組成物。

【請求項2】 オキシ酸が炭素原子数14～22のオキシ酸である、請求項1記載の口紅用組成物。

【請求項3】 脂肪酸アルコールが炭素原子数14～22の脂肪酸アルコールである、請求項1または2記載の口紅用組成物。

【請求項4】 リン脂質が大豆リン脂質である、請求項1～3のいずれか1項に記載の口紅用組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は口紅用組成物に係り、特に、のびがあり、つや、しっとり感が良好な口紅用組成物に関する。

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】一般に口紅用組成物には、ワックス、各種液状油分、着色材などの粉体、香料等が配合されており、これら成分の組み合わせにより口紅の基本的な使用性である塗布時ののびやなめらかさ、つや、しっとり感、化粧持ち等の特性を保つようにしている。

【0003】しかしながら、これらの基本的な使用性は、いずれも既に十分に満足すべき域に達したというわけではなく、市場から、さらにより一層使用性の向上した口紅組成物が望まれているのが現状である。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、鋭意研究を重ねた結果、オキシ酸と脂肪酸アルコールとのエステル化合物と、リン脂質とを組み合わせることで所定量配合することにより、特につや、しっとり感が格段に向上した口紅用組成物が得られることを見出し、本発明を完成するに至った。

【0005】すなわち本発明は、オキシ酸と脂肪酸アルコールとのエステル化合物を5重量%以上と、リン脂質を0.01～3重量%配合してなる口紅用組成物に関するものである。

【0006】ここで上記リン脂質としては大豆リン脂質（グリセロリン脂質）であるのが好ましい。

【0007】

【発明の実施の形態】以下、本発明について詳述する。

【0008】本発明に用いられるオキシ酸と脂肪酸アルコールとのエステル化合物の構成成分であるオキシ酸は、ヒドロキシ酸ともいい、1分子中にカルボキシル基（ $-\text{COOH}$ ）とアルコール性水酸基（ $-\text{OH}$ ）とを持つ化合物をいう。本発明では炭素原子数14～22のオキシ酸が好適に用いられる。具体的にはオキシステアリン酸、リシノール酸等が好適なものとして例示される。これらオキシ酸は、1種だけを用いてもよく、あるいは

2種以上を併せて用いてもよい。

【0009】脂肪酸アルコールとしては、炭素原子数14～22の脂肪酸アルコールが好適に用いられる。具体的には、セチルアルコール、ステアリルアルコール、イソステアリルアルコール、イソバルミチルアルコール、オレイルアルコール、ベヘニルアルコール等が好適なものとして例示される。これら脂肪酸アルコールは、1種だけを用いてもよく、あるいは2種以上を併せて用いてもよい。

【0010】本発明では、これらオキシ酸と脂肪酸アルコールの1種または2種以上を任意に組み合わせ、公知の手段によりエステル化し、オキシ酸と脂肪酸アルコールとのエステル化合物を得る。これらエステル化合物としては、具体的にはオキシステアリン酸オレイル、リシノール酸イソバルミチル、リシノール酸オレイル、オキシステアリン酸イソステアリル等が例示される。

【0011】上記オキシ酸と脂肪酸アルコールとのエステル化合物は、本発明口紅用組成物中、5重量%以上、好ましくは10重量%以上配合される。配合量が5重量%未満では本発明の十分な効果を得ることができない。なお、オキシ酸と脂肪酸アルコールとのエステル化合物の配合量上限は特に限定されるものではないが、通常は他の添加成分との相対的關係から50重量%程度以下が好ましい。

【0012】本発明に用いられるリン脂質は、化粧料等に通常用いられ得るものであれば特に限定されるものではないが、入手の容易性、安価であるということ等から大豆由来の大豆リン脂質が好ましい。

【0013】本発明に用いられるリン脂質は、化粧料等に通常用いられ得るものであれば特に限定されるものではないが、入手の容易性、安価であるということ等から大豆由来の大豆リン脂質が好ましい。この大豆リン脂質は、グリセロールを基本骨格とするグリセロリン脂質が主成分をなす。グリセロリン脂質としては、具体的にはホスファチジルコリン、ホスファチジルエタノールアミン、ホスファチジルセリン、ホスファチジルイノシトール、ホスファチジルグリセロール等が例示される。これらリン脂質はいずれか1種を用いてもよく、あるいは2種以上を組み合わせ用いてもよい。なお、これらのリン脂質は、それぞれ通常公知の方法に従った製造法で得ることができる。

【0014】リン脂質は、本発明口紅用組成物中、0.1～3重量%、好ましくは0.1～2重量%配合される。配合量が0.1重量%未満では本発明の十分な効果を得ることができず、一方、3重量%を超えて配合すると塗布時ののびが重くなり、好ましくない。

【0015】本発明ではさらに、本発明の効果を損わない範囲で、口紅用組成物に通常用いられる液状油分、固形油分、粉体等が配合される。

【0016】液状油分としては、通常化粧料に用いられ

るものであれば特に限定されることがなく使用することができ、例えば、流動パラフィン、スクワラン、テノリン誘導体、高級アルコール、各種エステル油、シリコン油、ポリアルキレングリコールポリエーテルおよびその他カルボン酸、オリゴエステル化合物、テルペン系炭化水素油等が挙げられる。なかでも流動パラフィン、スクワラン、シリコン油および各種エステル油等が好適に用いられる。これら液状油分は1種のみを用いてもよく、あるいは2種以上を組み合わせ用いてもよい。

【0017】上記液状油分の好適な配合量は、本発明組成物中20～70重量%であり、特に好ましくは30～60重量%である。配合量が少な過ぎると処方構成上無理な場合があり、一方、配合量が多すぎると本発明の十分な効果が得られない場合がある。

【0018】固形油分としては、通常化粧料に用いられるものであれば特に限定されることがなく使用することができ、例えば、セレンシワックス、カルナバワックス、ポリエチレンワックス、パラフィンワックス、キャンデリラワックス、マイクロクリスタリンワックス、ベヘニン酸、ベヘニルアルコール、モクロウ、ビーズワックス、セタノール等が挙げられる。これら固形油分は1種のみを用いてもよく、あるいは2種以上を組み合わせ用いてもよい。

【0019】上記固形油分は、例えばスティック状(棒状)の口紅用組成物を製造する場合などは、保形剤として本発明組成物中5～20重量%程度配合させるのが好ましい。

【0020】粉体としては、通常化粧料に用いられるものであれば特に限定されることがなく使用することができ、例えば、タルク、カオリン、絹雲母(セリサイト)、白雲母、金雲母、合成雲母、紅雲母、黒雲母、リチア雲母、バーミキュライト、炭酸マグネシウム、炭酸カルシウム、ケイ酸アルミニウム、ケイ酸バリウム、ケイ酸カルシウム、ケイ酸マグネシウム、ケイ酸ストロンチウム、タングステン酸金属塩、マグネシウム、シリカ、ゼオライト、ベントナイト、硫酸バリウム、焼成硫酸カルシウム(焼石膏)、リン酸カルシウム、フッ素アパタイト、ヒドロキシアパタイト、セラミックパウダー、窒化ホウ素、二酸化チタン、酸化亜鉛などの無機粉末や、ポリアミド樹脂粉末、ナイロン粉末、ポリエチレン粉末、ポリプロピレン粉末、ポリエステル粉末、ポリメタクリル酸メチル粉末、ポリスチレン粉末、スチレンとアクリル酸の共重合体樹脂粉末、シリコーン樹脂粉末、ベンゾグアナミン樹脂粉末、ポリ四フッ化エチレン粉末、セルロース粉末などの有機粉末のほか、各種顔料等が挙げられる。

【0021】上記粉体の好適な配合量は、本発明組成物中1～20重量%であり、特に好ましくは2～15重量%である。配合量が少な過ぎると十分な色調が得られない場合があり、一方、配合量が多すぎると粉っぽくなる

等、使用感が悪化する場合がある。

【0022】なお、本発明の口紅用組成物には、上記成分の他、通常化粧料に配合される各種成分、例えば、アクリル系樹脂、シリコーン樹脂、ポリビニルピロリドン等の樹脂や、大豆タンパク、ゼラチン、コラーゲン、絹フィブロイン、エラスチン等のタンパク質またはタンパク質分解物、酸化防止剤、紫外線吸収剤、紫外線遮蔽剤、界面活性剤、防腐剤、保湿剤、薬剤、染料、香料等を配合することができる。

【0023】

【実施例】次に、実施例により本発明をさらに詳細に説明するが、本発明はこれによってなんら限定されるものでない。なお、配合量は特に指定がない限り、重量%で示す。

【0024】下記の表1～2に示す各実施例、比較例の組成成分を秤量後、釜に投入、混合し、90～100℃にて加熱溶解後、攪拌分散、脱気を行った後、容器に流し込み、冷却して油性スティック状口紅用組成物を得た。これを試料として用い、下記評価基準に従ってのび、つや、しっとり感の評価を行った。

【0025】[のび] 専門パネル(15名)に各実施例、比較例の口紅用組成物(試料)を使用してもらい、官能で5段階評価(総合評価)し、その平均値で評価した。

<評価基準>

- 1: のびが悪い(重い)
- 2: のびがやや悪い(やや重い)
- 3: のびが普通
- 4: のびがややよい(やや軽い)
- 5: のびがよい(軽い)

(評価)

- ◎: 評価値(平均値) 4.5以上5.0まで
- : 評価値(平均値) 3.5以上4.5未満
- △: 評価値(平均値) 2.5以上3.5未満
- ×: 評価値(平均値) 1.5以上2.5未満
- ××: 評価値(平均値) 1.0以上1.5未満

【つや】専門パネル(15名)に各実施例、比較例の口紅用組成物(試料)を使用してもらい、官能で5段階評価(総合評価)し、その平均値で評価した。

<評価基準>

- 1: つやがない
- 2: つやがややない
- 3: つやが普通
- 4: つやがややある
- 5: つやがある

(評価)

- ◎: 評価値(平均値) 4.5以上5.0まで
- : 評価値(平均値) 3.5以上4.5未満
- △: 評価値(平均値) 2.5以上3.5未満
- ×: 評価値(平均値) 1.5以上2.5未満

××： 評価値（平均値）1.0以上1.5未満

〔しっとり感〕専門パネル（15名）に各実施例、比較例の口紅用組成物（試料）を使用してもらい、官能で5段階評価（総合評価）し、その平均値で評価した。

<評価基準>

- 1： しっとり感がない
2： しっとり感がややない
3： しっとり感が普通
4： しっとり感がややある
5： しっとり感がある

（評価）

◎： 評価値（平均値）4.5以上5.0まで

○： 評価値（平均値）3.5以上4.5未満

△： 評価値（平均値）2.5以上3.5未満

×： 評価値（平均値）1.5以上2.5未満

××： 評価値（平均値）1.0以上1.5未満

（実施例1～6、比較例1～15） 油性スティック状口紅用組成物

【0026】

【表1】

表 1

	比較 例1	比較 例2	比較 例3	比較 例4	比較 例5	比較 例6	比較 例7	比較 例8	比較 例9	比較 例10	比較 例11	比較 例12
セレンシワックス	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
カルナバロウ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
トリ-2-エチルヘキ サン酸グリセリル	68	67.99	67.9	65	63	65	64.99	64.9	62	60	63	62.99
液状ラノリン	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
マカデミアナッツ油	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
オキシステアリン酸 イソステアリル	-	-	-	-	-	3	3	3	3	3	5	5
大豆リン脂質	-	0.01	0.1	3	5	-	0.01	0.1	3	5	-	0.01
赤色202号	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
評 の び	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○
つ や	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○
価 しっとり感	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

【表2】

表 2（表1の続き）

	実施 例1	実施 例2	比較 例13	比較 例14	比較 例15	実施 例3	実施 例4	比較 例16	実施 例5	実施 例6
セレンシワックス	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
カルナバロウ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
トリ-2-エチルヘキ サン酸グリセリル	62.9	60	58	48	47.99	47.9	45	43	37.9	17.9
液状ラノリン	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
マカデミアナッツ油	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
オキシステアリン酸 イソステアリル	5	5	5	20	20	20	20	20	30	50
大豆リン脂質	0.1	3	5	-	0.01	0.1	3	5	0.1	0.1
赤色202号	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
評 の び	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○
つ や	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎
価 しっとり感	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎

表1～2の結果から明らかなように、本発明の処方では

のび、つや、しっとり感のいずれにおいても良好であつた。 【0027】

（実施例7） 油性スティック状口紅用組成物

（配合成分）

	（重量％）
ポリエチレンワックス	5
セレンシワックス	5
キャンデリラロウ	4
グリセリルジイソステアレート	34.9
オリーブ油	5

トリ-2-エチルヘキサン酸グリセリル	5
メチルフェニルポリシロキサン	10
オキシステアリン酸イソステアリル	25
大豆リン脂質	0.1
赤色202号	2
赤色201号	3
二酸化チタン	1
酸化防止剤	適量
香料	適量

(製法)原料を秤量後、釜に投入、混合し、90～100℃にて加熱溶解後、攪拌分散、脱気を行った後、容器に流し込み、冷却して油性スティック状口紅用組成物を得た。

を、上記評価基準に従って、のび、つや、しっとり感について評価したところ、のび：◎、つや：◎、しっとり感：◎であった。

【0028】

(評価)実施例7で得た油性スティック状口紅用組成物

(実施例8) 油性スティック状口紅用組成物

(配合成分)	(重量%)
ポリエチレンワックス	9
セレンシンワックス	2
パラフィンワックス	4
グリセリルジイソステアレート	41.5
マカデミアナッツ油	5
ヒマシ油	5
トリイソステアリン酸グリセリル	10
オキシステアリン酸ベヘニル	15
大豆リン脂質	2.5
赤色202号	2
赤色201号	3
二酸化チタン	1
酸化防止剤	適量
香料	適量

(製法)原料を秤量後、釜に投入、混合し、90～100℃にて加熱溶解後、攪拌分散、脱気を行った後、容器に流し込み、冷却して油性スティック状口紅用組成物を得た。

を、上記評価基準に従って、のび、つや、しっとり感について評価したところ、のび：◎、つや：◎、しっとり感：◎であった。

【0029】

(評価)実施例8で得た油性スティック状口紅用組成物

(実施例9) 油性スティック状口紅用組成物

(配合成分)	(重量%)
セレンシンワックス	10
キャンデリラロウ	4
グリセリルジイソステアレート	23
ジメチルポリシロキサン(粘度6cs)	5
スクワラン	5
イソプロピルミリスレート	10
リシノール酸イソステアリル	35
大豆リン脂質	2
赤色202号	2
赤色201号	3
二酸化チタン	1
酸化防止剤	適量
香料	適量

(製法)原料を秤量後、釜に投入、混合し、90～100℃にて加熱溶解後、攪拌分散、脱気を行った後、容器に流し込み、冷却して油性スティック状口紅用組成物を得た。

を、上記評価基準に従って、のび、つや、しっとり感について評価したところ、のび：◎、つや：◎、しっとり感：◎であった。

【0030】

(評価)実施例9で得た油性スティック状口紅用組成物

(実施例10) 乳化スティック状口紅用組成

(配合成分)

(重量%)

(A相)

パラフィンワックス	4
セレシンワックス	5
カルナバロウ	3
ジメチルポリシロキサン(粘度6cs)	10
ジイソステアシルマレート	21.5
ラノリン	20
オキシステアリン酸オレイル	25
大豆リン脂質	0.5
ベンガラ	2
二酸化チタン	1
赤色202号	2
酸化防止剤	適量
香料	適量

(B相)

合成ケイ酸ナトリウム-マグネシウム	1
ポリオキシエチレン-メチルポリシロキサン共重合体	1
イオン交換水	3
グリセリン	1

(製法) A相を90～100℃にて加熱溶解させ、分散機で分散した。次いでここにB相を加えてさらに分散し、脱気を行った後、容器に流し込み、冷却して乳化スティック状口紅用組成物を得た。

り感：◎であった。

【0031】

(評価)実施例10で得た乳化スティック状口紅用組成物を、上記評価基準に従って、のび、つや、しっとり感について評価したところ、のび：◎、つや：◎、しと

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、オキシ酸と脂肪族アルコールとのエステル化合物とリン脂質とを組み合わせることで所定量配合することにより、塗布時のつやを低下させることなく、のびが良好で、しっとり感に優れた口紅用組成物が提供される。

フロントページの続き

(72)発明者 曾山 美和

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
式会社資生堂第一リサーチセンター内

(72)発明者 那須 昭夫

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
式会社資生堂第一リサーチセンター内